



能登半島地震発生から2か月以上が経ち、ライフラインや医療体制などが徐々に復旧し、被災者を取り巻く環境が刻一刻と変わって行く中で、必要となる支援も変化してきています。

当院では、1月2日（火）にDMAT 第一陣を派遣して以降、DMATに限らず、JDA-DATとして栄養士、また災害支援ナースや臨床検査技師など、被災地からの要請に応じて各職種を派遣し、現地の災害拠点病院や避難所などで活動を続けておりますので、今回もその様子をご報告します。

## Topics 2/9（金）災害テント・除染テントを展開しました

大規模災害発生時、医療機関では多数の傷病者に対応するため、速やかに医療を提供できる場所を確保する必要があります。

その際に役立つのが、災害テントや除染テントなどの医療用テントです。災害テントは多目的に使用できるテントとして活用され、除染テントは、NBC災害と呼ばれる特殊災害発生時にも、重要な役割を果たすテントになります。

当院では、感染症危機管理センター前の倉庫に災害テントと除染テントを1台ずつ保有しており、実際の場面でスムーズに展開できるように、平時から練習を行っています。

2月9日（金）に災害テント・除染テントの展開を行いましたので、そのご報告とともにテントについてのご紹介をさせていただきます。

### 災害テントとは

災害発生時に、素早く簡単に設置することができるテントです。

テントを展開することで、医療施設内だけでなく屋外の空間も医療を提供するために有効活用できるようになります。テントは救護・緊急医療処置のスペースとして使用するほか、物資の保管場所、患者の一時待機所等、幅広い用途に使用することができます。

災害テント展開

1. カバーを開ける



2. 四方へ引っ張る



3. 広げたテントの中に入る



テントのサイズ  
幅 650 cm × 奥行 640 cm



4. 2人が骨組みの中心を金棒で天井につき上げる  
周囲の人は骨組みの下部を持ち、中央に向かい引く



5. 骨組みの隙間を繋ぐように金具で固定する



完成！



今回は、総勢 18 名で協力して  
それぞれのテントを立ち上げました！

### 除染テントとは

NBC災害発生時等に、被災者の除染を行うためのシャワー室が付いたテントです。

テントの中で、脱衣→シャワー→着衣までの一連の流れを行うことができるように部屋が区切られおり、被災者の救命・苦痛の軽減・悪化防止と、医療従事者等への二次汚染を防止することを目的として使用されます。当院では、空気で膨らませて展開する除染テントを採用しています。

除染テント展開

1. カバーを開ける



2. テントを広げる



3. ハルブに空気入れを接続し、送風開始



テントのサイズ  
幅 400 cm × 奥行 730 cm

4. 空気が入り、テントが立ち上がる

完成！

中には仕切りがついており、奥まで進むと反対側へ出られる

NUKE  
NBC災害ってなに？  
核 (Nuclear)

生物 (Biological)  
化学物質 (Chemical)

による特殊災害のことで、  
自然災害や事故、テロに  
よって引き起こされます。

例：原子力発電所事故、  
集団食中毒事件、  
地下鉄サリン事件など



総合サポートセンター  
医療ソーシャルワーカー 小坂 絵里加です

Face 



3月1日～5日まで1.5次避難所での支援活動に参加しました。活動内容は、受診・搬送支援や介護保険主治医意見書下書き作成支援等です。活動の中で、①他団体との連携、②経験を語りたがらない方の生活課題のアセスメント、③手書きの記録、④方言による伝わりにくさ(聞き取りにくさ)に大変さを感じました。

避難所を退所して次の生活の場に移行できたとしても、新たな生活課題が次々出現します(心理面、経済面、介護面等)。そのため、福祉の支援は長期に渡り必要となります。そんな中、医療、地域、福祉と関わるMSWはとても重要な社会資源であることを改めて実感しました。

被災された方が自ら生活を立て直すことができるよう、今後もMSWとしてできることを模索し続けていきたいと思います。

### 現地医療ソーシャルワーカーの派遣 活動報告 3/1-3/5

#### 主な活動内容

- ・ 受診、搬送支援
- ・ 介護保険主治医意見書下書き作成支援
- ・ 新規入所者アセスメント
- ・ 長期入所者支援

#### 活動の様子

派遣先：石川県金沢市

#### 1.5次避難所で活動

#### 1.5次避難所とは？

自宅の復旧や仮設住宅等への入居までの間、被災された方の生活環境を確保するため、旅館やホテルといった、より安全な場所に移ってもらう「2次避難」を進めている。その2次避難場所が決まるまでの対応としての一時的な避難所のこと。



ADL自立の方が過ごすエリア

要介護者、障害のある方が過ごすエリア



打ち合わせ中の様子



1日6～7人で活動

### JDA-DAT 第3弾 活動報告 2/12-2/15

朝倉秋絵 管理栄養士

#### 主な活動内容

- ・ 1.5次避難所での食事提供
- ・ 避難所の巡回と情報共有
- ・ 食環境の整備

#### 活動の様子

派遣先：石川県金沢市、他



JDA-DAT  
(日本栄養士会災害医療支援チーム)



避難所の調理場



各種会議に参加し、議事録の作成



避難所の食事



一次待機ステーションの食事



学会分類3

### Center Message

新入職員の皆さま、ご入職おめでとうございます。防災や災害対策と聞くと、どういったイメージを持ちますか？近いうちに大きな地震が起こると言われている今、自分も何か対策をとらないとと考えてはいるものの、実際には億劫で何も進まない、何を準備したらいいのか分からないと思う方が多いのではないかと思います。私もずっと同じ気持ちでしたが、このセンターに配属され、勉強していくなかで「特別な備えだけが防災ではない」ということを知りました。例えば、「必ずしも“非常食”を買わなければ」と考えるのではなく、普段から摂っている食品や調味料を少し多めに買って置いて、古いものから使ってなくなる前に買い足し備蓄していくローリングストックという方法があります。他にも、普段履くスリッパをインソール入りの丈夫なものにするなど... 日常に溶け込んだ「防災」はたくさんあるのです。このかわら版では、院内での防災訓練の報告の他、防災に関する豆知識などを毎月紹介しています。ぜひ、気軽な気持ちでのぞいてみてくださいね。

(センター看護師：あ)

～災害拠点病院として地域で一番の災害対策を目指して～

### リハビリテーション部

理学療法士 加藤 俊宏です

Face 



三重大学病院のJRATとして石川県七尾市・志賀町を中心に避難所・受援者の支援をさせていただきました。発災から2ヶ月近く経つこともあり、避難所の集約・統合が進められる中で活動となりました。集約により新たな住民を受け入れる避難所に対しては保健師チーム・DWAT(災害派遣福祉チーム)等と共同で環境の再調整を行い、移られる受援者に対してはこれまでのリハビリテーション支援が途切れないようにフォローを行いました。活動を通して、現地の復旧・復興フェーズに応じた支援を継続していくことの重要性を感じました。

### JRAT 活動報告 2/24-2/28

JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)とは、医師や理学療法士、作業療法士等、リハビリテーションの専門職で構成され、大規模災害の際に活動する支援チーム。被災地での生活の早期再建・復興を目指して、リハビリテーションの視点から避難所の環境整備を行ったり、全身の機能が低下してしまう生活不活発病や災害関連死を予防する支援を行う。

#### 活動の様子

派遣先：石川県七尾市、他

#### 主な活動内容

- ・ 避難所の身体活動状況
- ・ 生活環境調査
- ・ 避難者のリハビリテーション、トリアージ
- ・ 受援者の継続フォロー

DWAT・保健師チームと共に施設評価

行政の会議に参加



和式の仮設トイレ



トイレに入るまでも段差が存在



JRAT 会議 (オンライン)



ダンボールベッド

### 日本臨床衛生検査技師会被災地 DVT 検診活動報告 2/3-2/5

#### 主な活動内容 JMAT(日本医師会災害医療チーム)に帯同

- ・ 被災地でのエコミークラス症候群検診 (下肢静脈エコー、D-ダイマー測定、血圧測定、酸素飽和度測定、弾性ストッキング着用指導)

#### 活動の様子

派遣先：石川県能登町内の避難所



避難者は段ボールの仕切り内で生活している



問診や血圧測定、下肢静脈超音波検査等にて DVT 検診を実施

血栓検出率は全例 1033 例のうち 95 例であり、

通常の倍程度の 9.2%と高い結果となった

三重県チームは、30 例施行して血栓 2 例陽性で陽性率 6.7%であった

避難所での生活が1か月以上となり、エコミークラス症候群(深部静脈血栓症)の発生が危惧されています。下肢静脈エコーを中心とした血栓の有無に関する検診を日本臨床衛生検査技師会が実施しており、派遣の依頼がありましたので三重県の医療機関等に勤務する臨床検査技師10名と共に石川県能登町内の避難所を回り検診を行って参りました。

我々が回った避難所では、幸いにも直ぐに治療を開始しなければならない方は見られず安堵いたしました。今後も被災地でのエコミークラス症候群検診に取り組んで行きたいと思っております。

(検査部 技師長 森本誠)